

【市外（県内）中学校の部 大賞】

海の

四日市市立山手中学校 三年

大川 真里 奈

波は呼吸

渦は考え中

嵐はただのくしゃみ

「あ、ごめんよ。鼻がムズがゆくて。」

そんな海の言葉を、人は理解できずに怒りと受け取り、恐れ敬う。

「そんなのじゃないんだけどなあ……。」

引き潮はふてくされたから

満ち潮は開き直ったから

船を転覆させちゃうのは遊んでほしいから

「ねえ遊ぼうよう………あ、ごめん。」

海は今日も退屈な日々を過ごし

お腹の中にたくさん生物を住まわせ

のんびりとあくびをひとつ

「あああ、暇だなあ。」

友達に川と雨

でも、2人とも一瞬で消えちゃう

「こんにちわ。」

「こんにちわあ、もう行っちゃった。」

「……これって友達かなあ。」

そんな日々を重ねて、海は生きる。
空も太陽も月も

皆、みんな遠すぎて、声は届かない
こんな毎日でも、海は笑う。

「あああ、暇すぎて笑っちゃうや。」

笑い声が、波音が、響く。

響いて、空に消える。